

美術・平和 つながりは 岐阜・九条の会

岐阜空襲の頃を描いた絵本「ハマユウの咲くころ」を紙芝居にして、読み上げる上野芙美さん(右)=18日、岐阜市

岐阜市で18日、画家の上野芙美さん(80)を招いて「美術は平和とどのようにつながっているのか」を探るつどいが開かれ、15人が参加しました。主催は岐阜・九条の会の「サロン9条例会」。

上野さんは中学3年のとき、終戦を迎え、自分の体験を絵にとどめようと「ハマユウの咲くころ」と題する絵本を作成しました。この日はこの絵本を紙芝居にして、「火の海」から必死に生き抜いた当時の思いを読み上げました。軍の命令で死に追いやられ、自由のない悲惨な戦争から、人間が自由にのびのびと元気に生き抜くことが平和への願



いにつながると語りました。

故うえのたかしさん(芙美さんの夫)の「ゾウ列車が走る」の版画や戦争賛美の絵を書かされた治安維持法時代、安保闘争など、それぞれの時代の画家の思いにもふれました。

参加した書道をしている女性性は、「書きたい言葉があるから書くし、絵画も描きたい

と表現するものがあるから描く。書道も絵画も同じ思いがある」と語りました。元美術館長の男性は、「政府は戦争に駆り出させるための絵は書かせて、反対を唱える絵は消してしまった。最近では消された絵も外に出てくるようになり、平和への思いを強く描き出す大きな転機になっている」と述べました。